主婦が作る個人新聞 200号

江別の樋口さん「銀河通信」29年

平和や環境問題 映画・書評も

江別市の主婦が発行する隔月発行の個人新聞「銀河通信」が、今月200号に達した。創刊から29年。「できる限り長く続けていきたい」と意気盛んだ。

編集・発行人は樋口みな子さん(67)。1985年まで旭川市の病院で臨床検査技師を務めていた。結婚に伴って札幌に移ったのを機に88年7月、「友人とのつながりを続けたい」と一家の近況をB4判1枚に手書きし、20部作ったのが始まりだ。誌名には「宇宙のように広まってほしい」との思いを込めた。

やがて自身が関心を持つ平和問題や環境保全、市民運動などが中心となっていった。一方で、好きな本や映画の評も毎号4~5本ずつ掲載している。取り上げてきた映画や本はいずれも約700作品にのぼる。

柔らかい印象を強めようと、書体は丸ゴシック、文章は「ですます調」にこだわる。現在はパソコンで編集したA4判8ページで、隔月発行。登録制によるネット閲覧も可能で、読者は郵送100人、ネット450人に増えた。

発行25周年を迎えた時には廃刊も考えた。所属している市民団体「泊原発の廃炉をめざす会」で機関誌編集も務めながらの発行は体力的に負担だった。「ネットに情報があふれる中、自己満足なんじゃないかという不安が常にあった」とも言う。読者には年千円の郵送実費を払ってもらうが、銀河通信自体は無料で、持ち出しも少なくない。

それでも読者からの「楽しみに読んでいるから続けて」「紹介された本が面白かった」との反応で思い直した。樋口さんは「関心を持ってくれる方のためにも、細々とでも続けていきたい」と話している。

200号にはこれまでを振り返る特集とエッセーを掲載した。問い合わせは樋口さん(minakoginga@gmail.com)か、銀河通信のホームページ(http://www13.plala.or.jp/minginga/)へ。

(大山綾)

発行してきた銀河通信と樋口さん=札幌市中央区

朝日新聞 2017 年 3 月 30 日付朝刊 29 ページ(北海道)